

I 文献等の調査

●調査方法

- ①過去にまとめられた記録(自然資料・民俗資料など)を収集して、調査地および周辺地の種類を調査する。この調査は、調査期間の早い内に行い哺乳類相の把握に役立てる。
- ②自治体の傷病獣をあつかう部署、殞死体をあつかう部署の過去の記録を調査する。この調査は、調査期間の早い内に行い哺乳類相の把握に役立てるとともに、1年毎に調査を行う。

II 聞き取り

●調査方法

- ・地元の方・自然愛好家・農林業関係者などから目撃記録を収集し、できるだけ地図に記録する。
- ・この際に、いなくなった種類についても「いつ頃」までいたのかという情報を収集する。

注意：タヌキ・アナグマ・ハクビシンなどが混乱している場合があるので気をつける。

ムジナという名称がでることがあるので、どの種を指すのかを確認する。

図鑑を見せながら話した方がわかりやすい。

「多い」「たくさん」といった量を示す言葉がでた場合には具体的な数を確認する。

●調査時期

調査期間の早い内に行い哺乳類相の把握に役立てる。

●必要道具

調査用紙、図鑑、地図

III 踏査調査

●調査方法

- ①調査地を踏査し、目撃記録を地図に記録する。
- ②調査地を踏査し、フィールドサインからその種を識別し地図に記録する。これは必ず写真撮影を行うか、採集を行うものとする。

●調査時期

一年中

●必要道具

カメラ、ビニール袋(採集用)、地図、野帳

IV カメラを用いた調査

●調査方法

- ①スイッチと連動したカメラをケモノ道などに設置し、そこを利用した種類の写真を撮影する。
- ②肉食・雑食獣などは餌(ペットフードなど)で誘引した方が撮影の確立が高くなる。
- ③人里近くでは盗難・いたずらを避けるために、夕方に設置し翌朝には回収する。

●調査時期

一年中

●必要道具

カメラ、ストロボ、スイッチ類、ネガフィルム(ISO400)、ビニール袋(防水用)、野帳
(スイッチの例：ケンコー製、赤外線センサースイッチ 806050 ¥11,000-)

哺乳類聞き取り調査用紙

調査者名		調査年月日： 年 月 日
聞き取り場所		

情報提供者	氏名	住所
	(才)	
	その他	

種 類	内容確認	場 所	いつ	状 況
ノウサギ	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			
リス	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			
ムササビ	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			
タヌキ	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			
キツネ	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			
イタチ	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			
アナグマ	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			
ハクビシン	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			
イノシシ	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			
サル	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			
	直接見た・他人から聞いた いない・不明・その他			

●ねらい

水田・休耕田の変化を把握する

●対象種

サギ類

●生息環境

水田、水辺などで採餌する

●天敵

猛禽類など

●食性

魚類、両生類、昆虫など

●分布

アマサギ 繁殖期：北海道～九州 越冬期：九州以南 コサギ 繁殖期：本州～九州 越冬期：本州～沖縄
チュウサギ 繁殖期：本州～九州 越冬期：本州以南 ダイサギ 繁殖期：本州～九州 越冬期：本州以南
アオサギ 繁殖期：北海道～四国 越冬期：全国

●人為インパクトの影響

水田が放棄され、イネ科植物が繁茂するようになると餌場を失う。また、水田の整備状況等によっても種毎の出現頻度が異なる。

●調査時期

一年中、月1回程度。晴れた日。

●調査方法

見晴らしの良い地点に定点をとり、種類と個体数を調査する。定点1カ所で調査地を見渡せない場合は複数の定点をとるか、移動しながらカウントする。この際、重複してカウントしないように注意する。調査時に、環境の写真を撮る。

なお、サギ類以外に注目すべき種（猛禽類など）が出現した場合には記録をしておく。

●まとめ方

1年を単位として集計する。

●必要道具

双眼鏡・望遠鏡・調査用紙・カメラ

●ねらい

水田・休耕田の変化を把握する

●対象種

シギ・チドリ類

●生息環境

水田、水辺などで採餌・休息する

●天敵

猛禽類など

●食性

昆虫などの小動物

●分布

タゲリ 越冬期:本州以南 ケリ 繁殖期:本州 越冬期:本州以南 ムナグロ 通過期:全国 越冬期:関東以南 コチドリ 繁殖期:北海道~九州
 イカルチドリ 繁殖期:北海道~九州 越冬期:本州~沖縄 トウネン 通過期:全国 アオアシシギ 通過期:全国 キアシシギ 通過期:全国 ツルシギ 通過期:全国
 クサシギ 通過期:全国 越冬期:関東以南 タカブシギ 通過期:全国 タマシギ 繁殖期・越冬期:関東以南 チュウシャクシギ 通過期:全国

●人為インパクトの影響

水田が放棄され、イネ科植物が繁茂するようになると餌場・休息場を失う。

●調査時期

春と秋の渡りの時期。ピーク時に1回、その2週間前と2週間後にそれぞれ1回、あわせて3回。

地域ごとのめやす

	春	秋
九州	4月下旬	9月下旬
関西	4月下旬~5月上旬	8月上旬~下旬
関東	4月下旬~5月上旬	8月下旬
東北	5月上旬	9月頃
北海道	5月下旬	8月下旬~9月上旬

●調査方法

見晴らしの良い地点に定点をとり、種類と個体数を調査する。定点1カ所で調査地を見渡せない場合は複数の定点をとるか、移動しながらカウントする。この際、重複してカウントしないように注意する。調査時に、環境の写真を撮る。個体数の多い場合には1回の調査で3回カウントする。

なお、シギ・チドリ類以外に注目すべき種(猛禽類など)が出現した場合には記録をしておく。

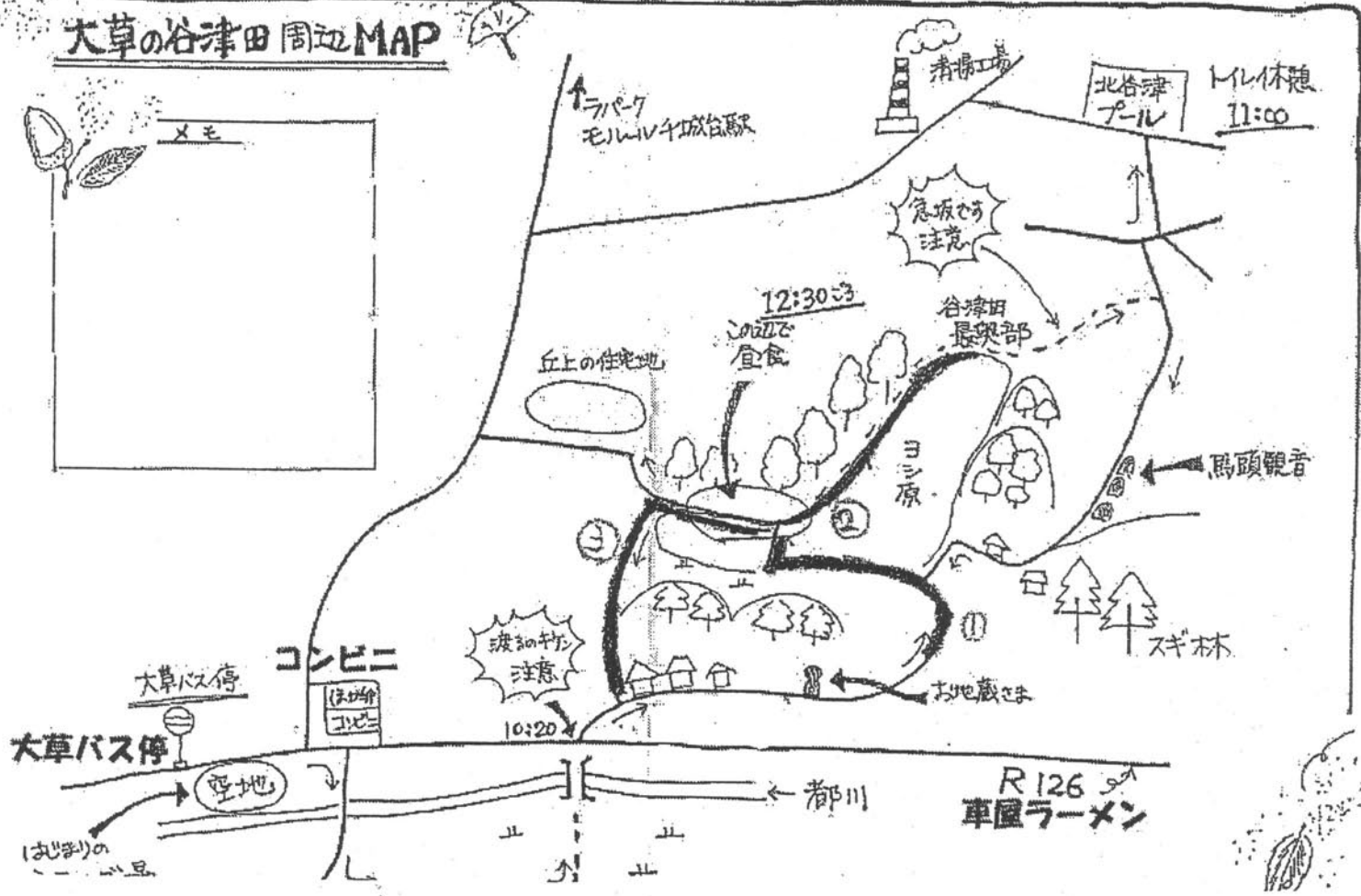
●まとめ方

1年を単位として集計する

●必要道具

双眼鏡・望遠鏡・調査用紙・カメラ

大草の谷津田周辺MAP



●ねらい

調査地域全体の変化、微環境の変化を把握する。

●対象種

全ての種

●生息環境

種によって異なる

●天敵

イタチなどの哺乳類、上位の鳥類

●食性

種によって異なる

●分布

全国で調査が可能

●人為インパクトの影響

環境の質、環境の変化によって種や出現頻度が異ってくる。

例) ウグイス：藪のない林には少ない。 クロジ：暗い林を好む

●調査時期

繁殖期と越冬期、最低3回。雨天時・強風時には行わない。

地域ごとのめやす

	繁殖期	越冬期
沖縄	4月 AM6:30-9:00	12月中旬～2月中旬 AM8:00-11:00
近畿以西	4月下旬～6月 AM5:30-9:00	12月中旬～2月中旬 AM8:00-11:00
本州以北	4月下旬～6月 AM5:00-9:00	12月中旬～2月中旬 AM8:00-11:00
北海道	6月～7月上旬 AM5:00-9:00	12月中旬～2月中旬 AM8:00-11:00

●調査方法

①調査コースの設定：1つの環境に最低500m程のコースを1つ設定する。

例：林縁部と耕作地・休耕田の間の農道に1コース、管理された林に1コース、放置された林に1コース、植林地に1コース、将来人為インパクトが予想される箇所に1コース

②調査方法：時速2kmほどで調査コースを歩きながら、片側25m以内(合計50m)に出現した鳥類の種類、個体数、行動、環境などを調査用紙に記入する。なお、調査範囲外で出現した種についても記録をしておく。 ※調査は1人または少人数で行う。

●まとめ方

・コース毎の出現種類・個体数を集計し、出現頻度を計算する。

●必要道具

双眼鏡・調査用紙

